midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム
北相模

January 2017 No.434-435

１月号の１枚：フォレストクラス、体験イベントを実施

平成２９年：新年あけましておめでとうございます

７つの活動班が理念を共有する実践活動

会員の皆様には益々ご健勝の御事と大慶に存じます。
「森林破壊と言う負の遺産を子孫に残してはならない」と言う当会の理念のもと、会員皆様の一致団結の成果が実り、「NPO法人緑のダム北相模地球環境部」に対し、去る10月22日（土）東京都市大学環境学部から「最優秀賞」、また（株）環境新聞社から「環境コミュニケーション賞」が授与されました。今回の受賞は環境新聞社から世界186か国に配信されるとの事です。

また、12月10日（土）には、環境省第4回グッドライフアワードにおいて「環境大臣賞優秀賞」を授与され、副代表理事の宮村と共に式典に参列しました。

1998年5月に森林保護任意活動の準備を開始し、同年11月20日（第3日曜日）に「さがみ湖森つくりの会」の名で相模湖畔「与瀬、貝沢の森」に実践・森林整備活動に入り、2002年7月に「NPO法人緑のダム北相模」として法人活動の発足に至り、本年で通算20年目の活動に入ります。この間「無理せず、休まず、楽しく、ボチボチと」を合言葉に、例えば2012年3月の大雪の日、JRは高尾駅止まりになりましたが、駅近くの公民館を借り、森林勉強会・意見交換会を行い、午後は公民館周りの雪かきを済ませ、最後は雪合戦を楽しみました。月2回の定例活動は“継続は力：雨でも休まず”を一日も欠かさず実践しました。

森林は多様性：当会には「森林整備班」「お花畑班」「木工班」「地球環境部」「フォレストノバ」「生命の森宣言」「フォレストクラス」という7つの活動班がありますが、「子孫に負の遺産を残さない」という理念を共有して実践活動を続けています。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2017.01

１月第１日曜日
「小原本陣の森」「知足の森」
は、森のしきたりにより活動を行いません

1月15日（第三日曜日）：
相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

[定例活動]小原本陣の森

12月4日（第一日曜日）

小原の石井さんの竹林の整備作業を5名で行った。

作業がやり易く安全に勧められるように、過っては畑だったといわれる広場を最初に整備して、竹の伐倒方向を広場側とした。伐倒組と枝払組の２組に分かれて広場の西側から作業を進めた。

竹林内では灌木を除去しながらの伐倒作業で、広場では竹の枝払いを行なった。

枝ゴミも広場の端に並べて処理している為に手間が掛かる。３０本程を処理した結果、１０月に作業に着手した状況に比べると格段に明るくなった（写真２枚は作業前、作業中の様子）。

今後、広場のすぐ奥の崖の手前までの竹は伐倒する予定である。

全てが終わるまでは、まだ５回ほど掛りそうである。

川田　浩（本会、副代表理事）

[定例活動]知足の森

12月3日（第一日曜日）

知足の森は前日の３日に臨時活動として行いました。山主の長福寺さんからお寺すぐしたの道路に倒れかかっている巨木がありなんとかならないかと相談があり、同時に森も暗いので優先的に取り組みたいということで今回はお寺から近いところでの作業となりました。面積的には0.2ha程度なのでたいしたことはないと踏んでいたのですが、沢沿いということもありかなりの急斜面でした。よって、参加した中高生を作業ができ、斜面でもやれるというメンバーと、無理そうだというメンバーには違う仕事を割り振り、まずは現況の確認、ナンバリングを行いました。

これまでにも竹の除伐をしていたので、慣れてはいる場所ではありましたが、今後の倒木処理もあるので全ての竹を伐ることにし、竹を切るチームと毎木調査のためのナンバリングのチームに分かれました。ナンバリングのほうはあちらこちらに移動しながら声をかけあわねばならないのでチームワークが要求されるなかなか難しい作業です。午前午後と順調に作業をすすめ約100本のスギヒノキがあることがわかりました。例によりどこからか生えてきたシュロも数本あり、こちらも伐ることにしています。今回のデータをもとにきちんと計算すると833/haとなり、径も大きいこと、森がかなり暗いことからも半分程度は切ってはどうか、ということになりそうです。また４日の小原の森定例活動後にはフォレストクラスのプロ２名、森林整備班も合流し、さらに詳細に下見を行いました。その結果、電線や電話線も複数あり、場合によってはきちんと手続きをとっての取り外し、またガードレールについても取り外しての作業が必要になることがわかり、来月に住職さん同席のもとさらなる打ち合わせを行うことになりました。雪も心配なため、この大きな倒木は公道が通れなくなる可能性もあるので、相模原市などに連絡し、対応してもらうことも含め、打ち合わせを終了しました。来月の活動日は三が日にあたるので、今月同様に臨時活動を行う予定です。また公図をもとにした簡易測量も行いたいと思っています。

この１年間無事に作業ができたのもみなさまのご支援、ご助言、そして、活動に理解をしていただいた住職さんのおかげです。ありがとうございました。2017年も安全に配慮しながら活動を行いたいと思っております。

宮村　連理（本会、副代表理事）

[定例活動]相模湖嵐山の森

12月18日（第三日曜日）

今月の嵐山の報告です。森林整備班は川田晃氏、岡田繁氏、小林のメンバーで活動。今回は石村理事長からの要請もあり、山のコンサートクリスマスバージョンVol１を川田晃氏、伊藤女史、小林で「ギーターでクリスマスソングをみんなで歌おう！」を準備したが、山主の鈴木史比古氏が１５日亡くなられたとの訃報に中止を判断した。夕方よりの通夜に参列することになった。

活動は、午前中はお正月を迎えての主要経路の整備活動とし、午後は下草刈り用の大鎌２０本の刃の研磨並びに普通の鎌１０本の研磨を終了し、春からの活動に支障が生じないよう準備する。基地の周りの道路を中心とした落葉の片づけの補助という目標で活動した。午前中の主な作業は水源林の鬱蒼としたハリギリの大倒木が前から気になっていたので、今回一気に取り除く作業を行った。森林整備班以外にNOVAの学生２名の手伝ってもらい見違えるような景色になった。昼食時間はForesToClassの若者による丸太ストーブや空中ハンモッグの実演があった。

午後は、命の森宣言の２名に加わってもらい大鎌の砥石を使った研磨を行った。１００円均一で購入できる砥石を使ってケガをしない研磨技術を伝え、手分けしてかなりのスピードで多量の鎌の研磨を終えた。水を使うので日が落ちてくると手の冷たさがいささか堪えたが皆さんが楽しそうにやってくれたので良かった。来春鎌を使う人は切れ味のいい鎌で作業ができることを想像しながら作業したそうです。（感謝）チェーンソーもそうですが、使用後には整備して道具を片付ける習慣を根付かせたいと思います。

（報告：小林照夫）

木工班は先月に引き続いてのホゾ加工である。長谷川さんの指導を受け、２本の丸太柱のホゾと太鼓梁のホゾ穴をそれぞれ合わせて仕上げ加工を行った。柱の基礎部の四角加工までは進めなかったため、残念ながら年内には柱全部を立てることが出来なかった。太鼓梁に入れてあった墨の線が不明瞭になったため、長谷川さんは「ちょうな（釿・手斧）」で墨入れ面を、気持ち良いリズムできれいに再仕上げして、芯墨を入れ直した。

（報告：川田浩）

生命の森宣言東京では今月の参加者は３名でした。引き続きＡ地区の除伐を行いました。作業をすすめていると、トチノキを下木に植栽している上部にもスギ・ヒノキが少なくなった凹地があるのに気付いたので、トチノキを植えて混交林にするのも一案？と会話が弾みました。ところで、Ａ地区のスギに不思議な皮剥がありました。動物が人の背丈位の高さのところをいたずらするでしょうか？

（報告：菅原修）

お花畑班は班長の丸茂さんが急用で不参加となり、岡田、滝澤、石原の３名で活動。

まず、小原の畑から届けられたヤーコンのうち小粒のものを、来春の植え付けに備えて仮植えした。その他の立派なヤーコンは、多数の持ち帰り希望者に配られた。その後はもっぱら道路の落ち葉掃きを中心とした清掃作業に取り組んだ。集めた落ち葉の一部は、カブトムシ牧場（堆肥作り）に積み込む。

午前中はお花畑と基地の間の道路、午後は県道と県道から基地への上り道を清掃。県道についてはこの間に行政による道路清掃が行われたらしく、落ち葉の量は昨年と比べると格段に少なくて楽だった。作業はおもに熊手と竹箒で行うが、さらに今回はハンディなブロワーを使用することもできたので、少人数ながら作業が捗った。

（報告：石原邦雄）

ForesTo Classは12月18日は「森の体験型イベント開催」として、森で楽しむ実践間伐を行いました。スタッフ含めて参加者は13名となりました。相模湖（嵐山）のフィールドを主体とした森林整備体験に楽しさをプラスして活動の動機付けを行い、活動の輪を広げることを目的とし、以下のプログラムを内容としました。

[1]間伐の説明、[2]間伐体験、[3]スウェディッシュトーチ料理（※スウェーデン式の丸太ストーブの意味）、[4]森でハンモック体験、[5]ワークショップを2班に別れて、各班1本ずつ間伐を行い、昼には丸太ストーブを使いビーフシチューを堪能していただきました。午後は森林浴を兼ねてハンモック・ハンモックチェ ア専門店すさびの方とコラボ企画として、森でハンモック体験を組み込み、新しい森の楽しみ方を演出しました。参加者の声として、漢字一文字で感想をいただいております。

初：すべて初めての体験づくしで良い経験となった。
森：森林の事を掘り下げて知ることができた。
共：森林と人間が共生していることを改めて実感できました。
活：今回の活動で得たことを活かせるようにしていきたい。
倒：実際に木を伐る迫力に圧倒されて感動した。
戻：子供の頃、自然で遊んでいた感覚に戻り楽しめた。

今後も森林の価値向上と新しい価値を見つけられるようなイベントを行っていき、森の仲間を増やせるような入口としていきたいです。（報告：滝澤康至）

今月の地球環境部は三鷹二中に加え、高井戸中の卒業生の高校生、東海大高輪台高校でSSHの現地実習から興味を持ってくれた生徒さん２名と大所帯での作業となりました。年末ということもあり、林内を一通り整理しながら、動滑車による掛かり木の処理について検討することにしました。まずは先月倒したところで終わっていた２本の枝払い、玉切りを行いました。今月ばかりは年内で整理するという目標があったのでやれるところはチェーンソーで作業しました。人数も多く、時間のかかる玉切りも動力を使ったのであっという間に終わり、さらに間伐を続けることになりました。１本目、２本目と順調に倒し、動滑車の出番はないかと思いきや、３本目が掛かってしまいました。高校生数人で引っ張りましたがなかなか動かず、予定通り（？）動滑車をかますと、これがあっけなく倒れ、そのパワーに高校生もあっけにとられました。掛からないことが一番ですが、今後チルホールもフォレストクラスのみなさんにご指導いただき、組み合わせれば懸案だった電話線周りの木も間伐できそうです。来年から取り組んでみたいと思います。（報告：宮村連理）

さいごにForestNova☆活動報告。午前中は参加者が少なく、森林整備班のお手伝いをさせていただきました。午後には今回の参加メンバーが無事に全員集まり、カブトムシ牧場の作業に移りました。午後の大掃除で集まった落ち葉を木の囲い一杯に詰めました。かけやが壊れていたため囲いの修復に時間がかかりました。もっと定期的に整備しておけば、こんなに大変じゃなかったんじゃないかな・・・と思いました。

五味　輝史（Forest Nova）

追悼、鈴木さんへ

当会「NPO法人緑のダム北相模」発祥の地である「相模湖・嵐山の森」の地権者鈴木家第17代ご当主・鈴木史比古様（68歳）は、ご闘病にありましたが、さる12月15日に永眠の途に付かれました。葬礼の儀は12月18日、19日に城山町JA会館にて行われました。

思えば、史比古様は先代鈴木重彦様と共に、当時苦難の状況に置かれていた当会に、快く活動の場所を貸与して下さった大恩人であります。
重ねて感謝の意を捧げご冥福をお祈り申し上げます。

昨年８月のフォレストキッズスクールで小学生にブルーベリー畑の説明をされる鈴木さん

当会からは、役員はじめ多数の会員たちが御葬儀に参列して哀悼の意を尽くしました。九州や小笠原の遠隔地勤務の会員からは、鈴木家第18代となられる鈴木典子様に弔電が献じられました。

石村　黄仁（本会、代表理事）

[報告１]
相模湖・若者の森づくりから
～Forest Nova

私は、昨年の4月にフォレストノバに入った新入生です。最初は、大学特有のサークル勧誘に負けて連絡先を交換した数ある団体の１つと認識していましたが、最終的にはフォレストノバ１つに落ち着いて今まで活動してきました。
フォレストノバとしていろんなイベントに参加してきましたが、学生や同年代の方のみならず、小学生からご年配の方までさまざまな年齢や立場の人たちと関わることができて、1年前まで普通の高校生だった私の世界が一気に広がったように感じます。他の学内のサークルに入っていたらきっと経験できなかったことだと思うので、フォレストノバに入ってよかったと思っています。
今年は私も新入生ではなくなります。フォレストノバという団体を盛り上げることが今年の私の目標です。まずは、学内外での認知度を上げるためにSNSやネットを利用して活動をたくさんの人に広めていきたいと思います。そして、新入生を増やしてより多くの活動に積極的に参加できるようにしたいと思います。

服部　七星（Forest Nova）

[報告２]
相模湖・若者の森づくりから
～地球環境部

昨年エントリーいたしました環境省第４回グッドライフアワードにて環境大臣賞優秀賞を受賞いたしました。「質の高い施業を行うとともに、森林体験学校の開催等により、中高大学生等の多数の若者が参加する仕掛けを行いつつ、継続的な活動を実施」という受賞理由をいただきまして、我々、地球環境部、フォレストノバ、フォレストクラスの３つの若者の団体の活動を評価していただきました。授賞式では映像を中心に活動紹介を行い（今回はちゃんとスムーズに動きました）、中学生の間伐のシーンや積み木の（やはり）壊すシーンで大きな歓声があがり活動の内容を伝えられたのではないかと思います。また他の受賞団体の方とも懇親会を通して知り合うことができ、受賞にまさるものを得られたと思います。これからも人の縁を大事に活動を続けていきたいと思います。

宮村　連理（本会、副代表理事）

[報告３]
東海大高輪台高校SSH
参加者の感想から

木を切る快感

　森林実習をやってみて思ったことは色々ありますが２つにまとめます。
　私達一般の高校生でも木が切れることに驚きました。受け口の切り方やのこぎりの使い方は初めてだったので、うまく切れるか不安な部分はあったけれど、皆で交代で切ることで少しずつ調整することができ、無事に切り倒すことができました。
　山にあまり植物が生えていないことにも驚きました。生えていても、強い植物や日が当たらなくても育つような植物ばかりでした。良い山には良いコケが生えると聞いたことがあります。嵐山はあとどのくらい木を切ればそうなるのか気になりました。
　私はこの森林実習を体験することができてとても良かったと思います。木が倒れた時の音と振動が体に響く感覚が、今も忘れられません。

平柳　蓮奈
（東海大学付属高輪台高校１年）

　平柳さんともう１名の生徒さんがその後の定例活動にも参加してくれています。その報告は来月号以降でご紹介します。

[事務局より]

相模湖・嵐山の森定例活動後に新年会を行います。

　今年度も新年の活動として、定例活動内で森の神さまに新年のご挨拶、また活動後には新年会を予定しております。場所は県立相模湖交流センターの「ともしび喫茶青林檎」にて、時間は１６時からを予定しております。毎年、フォレストノバ、フォレストクラスなどが司会、お楽しみ企画を用意してくれています。また、会員同士の交流の場ともなっておりますので、ぜひご参加ください。当日参加も歓迎です。

　写真は昨年度の様子です。

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、第３日曜は自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１８年間、一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636

支援団体：セブン-イレブン記念財団、２２世紀やま・もり再生ネット
賛助団体：北都留森林組合、（株）トレカーサ工事、東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所